

万機公論

県優良住宅協会代表理事 石田 保弘



木材不足 影響最小限に

「ウッドショック」という言葉をよく耳にするようになった。国内での木材不足や価格高騰を意味するが、林業、製材、建築の関連業者や、住宅購入を考えている方々以外は詳しい内容まで知らないと思う。

原因は、北米での害虫被害や森林火災に加え、米国と中国で建築ラッシュが起こったことだ。これにより、木材の世界的な需給バランスが崩れ、日本に入りにくくなった。さらに、新型コロナウイルス下でのネットショッピングの増加で世界的に

流通用コンテナが不足し、運賃の上昇にも陥った。国産材も不足する状況になっている。

当協会では今年の夏、会員工務店に「ウッドショックの影響に関するアンケート」を実施した。多くの工務店で4月ごろから材木や建築資材などが入荷しにくい状況が発生し、仕入れ価格も以前に比べて高騰しているとの回答があった。県内にも少なからず影響が出ているとの結果だ。

ただ、施工価格への影響は、地元の各工務店が最小限にとど

めている。入荷についても、品薄のピークは超え、若干の遅れはあるものの必要な量は確保できている。

輸入材の原価は落ち着きつつあり、沈静化に向かっているようだ。しかし、解消がいつになるかはまだ分からず、一日も早くこのような状況が改善されることを願う。

協会としては、在庫や入荷状況を把握してお客さまにフィードバックし、建築のタイミングを調整するなど、極力ご心配やご迷惑が掛からないようにきめ

いしだ・やすひろ 婦負高校(現富山西高)卒業後、大工石原建築入社。1985年に同社の前社長と石原建築を設立し、2005年から社長を務める。協会では理事、副会長を歴任し、21年6月から現職。66歳。

細やかな対応で臨んでいる。私自身、6月に代表理事(会長)に就任し、気候風土やライフスタイルにあった最良の住環境を提供し続けることを目指している。

長期的には、ウッドショックの経験を生かし、国内の森林資源を活用した安定的な需給関係の構築が求められる。協会としても、さらなる国産材・県産材の利用を促進していく。